

ふき

農薬取締法上「ふき」と「ふき（ふきのとう）」は別の作物である。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
促 抑	成		■		■	■				▲			
	制		■	■	■	■					■		■
白 灰 半 ア コ ハ ヨ フ	絹 色 身 ラ ジ ス モ ト ウ メ	病 病 病 類 類 ウ シ ガ			——	——	——				——	——	
	び 凋 シ ミ ト ム イ				——	——				——	——		
			——							——	——		
										——	——		
										——	——		
										——	——		

白絹病

留意事項

- 1 高温多湿が続くと発生が多い。
- 2 かん注は地際部にもよくかかるよう株元に行く。
- 3 リゾレックス粉剤、リゾレックス水和剤の成分トルクロホスメチルの総使用回数は、3回以内（但し、種茎粉衣は1回以内、定植前の土壌混和は1回以内、株元かん注は1回以内）。
- 4 バリダシン液剤5の成分バリダマイシンの総使用回数は、5回以内（但し、種茎浸漬は1回以内）。
- 5 SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 田畑輪換を図る。
- 3 定植前または植付時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ **リゾレックス粉剤** 14 【20~40kg/10a 土壌混和 定植前/1回】
 - ・ **バリダシン液剤5** U18 【800倍 30分間種茎浸漬 植付時/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を土壌に処理する。
 - ・ **バリダシン液剤5** U18 【800倍 かん注 3L/m² 7日/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [リゾレックス水和剤](#) 1 4 【1000倍 株元かん注 3L/m² 21日/1回】
- ・ [モンカット水和剤50](#) 7
 【1000～2000倍 土壌かん注 3L/m² 定植時および生育期(30日)/2回】

灰色かび病

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) M 5 【1000倍 21日/2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) 1 2 【1000倍 7日/2回】
 - ・ [スミブレンド水和剤](#) 2 1 0 【1500倍 14日/2回】

半身萎凋病（はんしんいちょうびょう）

留意事項

- 1 本病は土壌伝染及び種茎伝染し、なす・トマト等の半身萎凋病と共通の病原菌である。
- 2 発病適温は気温22～26℃である。

防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 種茎は発病の見られないほ場の健全株から採取する。
- 3 被害株は根を含めて早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 夏期高温時に太陽熱利用による土壌消毒を行う。（Ⅶ土壌消毒 参照）

モザイク病

防除方法

- 1 ウイルスによるモザイク症状や萎縮が発生した株は廃棄し、種茎として用いない。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項参照）

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 ハウスでは、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.8mm以下）で被覆する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A
 - 【20kg/10a 土壌表面散布 定植後～生育期（草丈20cm頃まで）（45日）/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1500倍 7日/2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4000倍 7日/2回】

コナジラミ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは処分する。
- 2 ハウスでは、開口部を寒冷しゃで被覆する。
- 3 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2000倍 7日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【3000倍 14日/2回】
 - ・ [アプロード水和剤](#) 1 6
 - 【タバココナジラミ類幼虫（シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む） 1000倍 21日/3回】
 - ・ [サンマイルフロアブル](#) 劇 2 1 A 【1000倍 14日/2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2000倍 7日/2回】
 - ・ [アタブロン乳剤](#) 1 5 【2000倍 3日/3回】
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 2 8 【2000倍 3日/3回】
 - ・ [ファルコンフロアブル](#) 1 8 【4000倍 3日/2回】
 - ・ **BT剤** 1 1 A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

フキノメイガ

留意事項

- 1 地下茎にも食入することがある。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1500倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。